

目 次

I 研究テーマ設定の理由	41
II 研究仮説	41
III 研究の全体構想図	42
IV 研究内容	43
1 教育課程編成の必要性	43
2 総合的な学習の意義と基本的な考え方	43
(1) 総合的な学習の意義	43
(2) 総合的な学習の基本的な考え方	43
3 教育課程への位置づけ	44
4 自己教育力と総合的な学習との関わり	44
5 総合的な学習の年間指導計画の作成	44
(1) 「総合的な学習の時間」の学習内容について	44
(2) 授業時数の運用と実際《事例》	44
① 授業時数の配分	44
② 学習活動の手順	45
③ 年間指導計画実践事例【地域の伝統文化や歴史に触れよう】	45
④ 活動の構成と配列	46
6 時間割編成の工夫	47
(1) 時間割の意義	47
(2) 時間割編成の工夫	47
V 総合的な学習のアンケート調査結果・考察	48
VI 研究の成果と課題	50
1 研究の成果	50
2 今後の課題	50
参考文献	50

I 研究テーマ設定の理由

平成14年度から完全学校週五日制が開始されるに伴って、教育課程の基準が改善されることになった。この答申では、各学校がゆとりの中で特色ある教育を展開し、子どもたちに豊かな人間性や基礎・基本を身につけ、個性を生かし自ら学び、自ら考える力を培うなど、「生きる力」を育むことを基本的なねらいとしている。改善の特徴の一つとして、各学校の創意工夫を生かした教育活動が一層展開できるようにした「総合的な学習」の導入がある。

「総合的な学習」が意図するところは、

- 自分で課題を見つけて、学び、考え、判断する力を育てる。
- 学び方やものの考え方の習得させ、問題解決に当たる態度を育成する。

更に、これらを通じて得た知識や技能を総合的に生かせる。いわゆる、「知の総合化」を目指している。

文部省は、「総合的な学習の時間」については、目標や内容を限定しておらず、ねらいと学年ごとの時間枠だけを示している。従って、各学校においては、そのねらいに相応しい学習内容（活動）を自らの教育課題に応じて創意工夫し、活動を展開していかなければならない。

ところで、県外の指定校や先進的実践校においては、クロスカリキュラムや合科的学習などと名称や組み立てを変えて、学校による特色を出して現課題の解決に取り組んでいるところや、教科中心の学習内容で教科の内容から総合的な学習を捉えているところがあり、様々な実践が展開されている。

たとえば、社会科においては、縄文式土器作りの体験や野焼きなどの体験を通じた授業を展開している。これも、社会科を主体とし歴史学習の学習内容を実体験する学習であり、総合的な学習というよりも合科的学習に近いものである。

総合的な学習を進めるに当たっては、下記のことに配慮し、計画実践することが望ましい。

- ・ 子供自らの生活体験の中から「気づき」「疑問」を投げかけ「願い」を持たす
- ・ 学び方やものの考え方の習得を重視する
- ・ 生活実感に根ざした体験的・問題解決的学習活動を通して展開する
- ・ 子供の発達段階や意欲の継続性を考慮に入れる
- ・ 横断的・総合的な学びを支援する
- ・ 地域行事や実態、季節の関連性等を考慮に入れる
- ・ 家庭や地域との連携による人材活用をする

授業においては、学び方や調べ方学習、作業的・体験的な学習や問題解決的な学習などの子どもたちの主体的な学習を大きく取り上げ個性的な学びを確立していく必要がある。

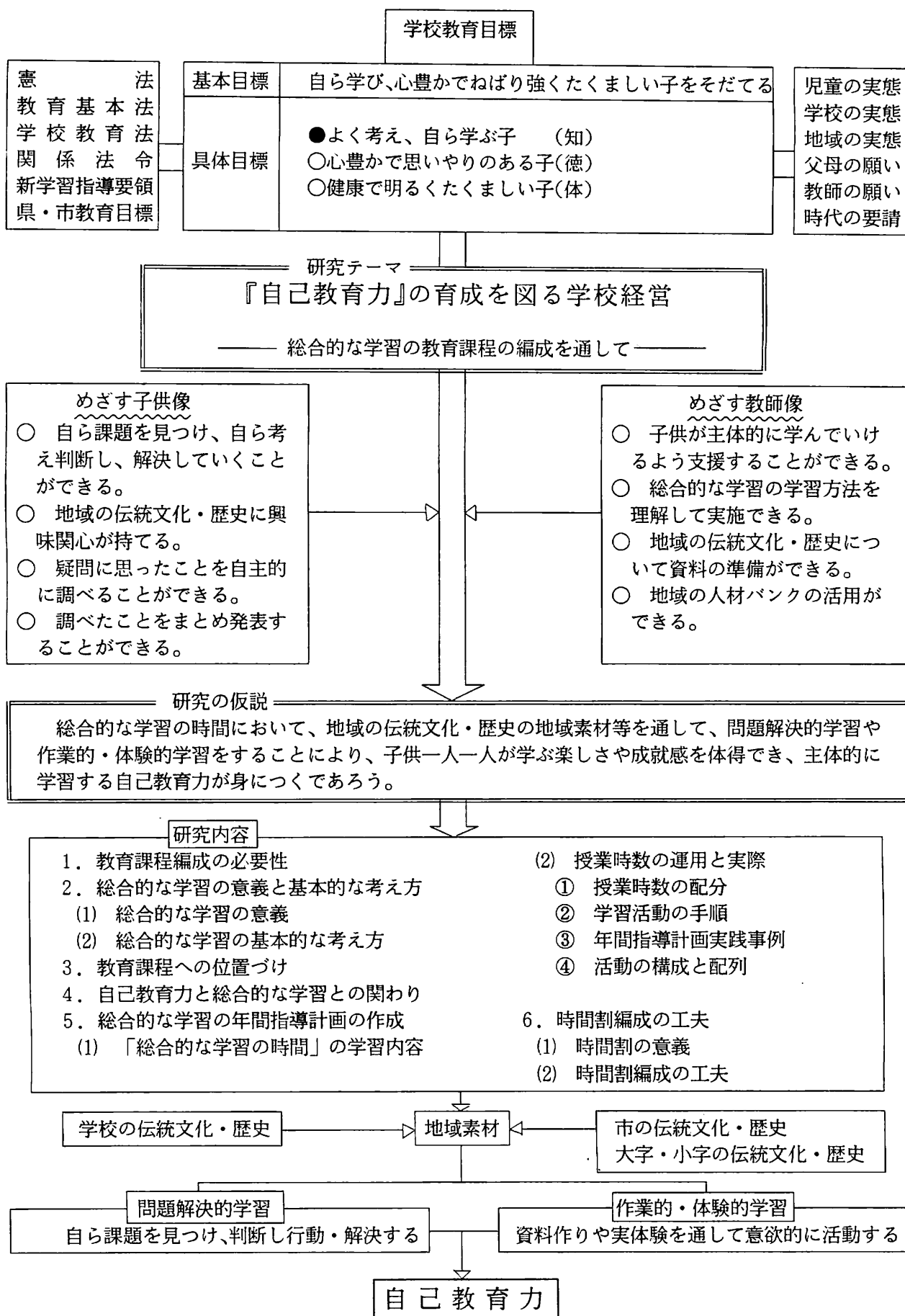
つまり、子供が課題に対して興味・関心・意欲を持ち、継続して課題追求に取り組める計画をすることで、子供自ら学び、判断し、行動し、解決していける能力や態度の育成を図っていくものでなければならない。

そこで、「総合的な学習の時間」を実践していく過程において、子供自ら主体的に学び意欲的に活動する。すなわち、自己教育力の育成が図れるのではないかと考え本テーマを設定した。

II 研究仮説

総合的な学習の時間において、地域の伝統文化・歴史の地域素材等を通して、問題解決的学習や作業的・体験的学習をすることにより、子供一人一人が学ぶ楽しさや成就感を体得でき、主体的に学習する自己教育力が身につくであろう。

Ⅱ 研究の全体構想図



IV 研究内容

1. 教育課程編成の必要性

平成14年度より完全学校週5日制が実施されるに当たり、「生きる力」を育むこと、ゆとりある教育を目指すことから教育内容が削減され、総合的な学習の時間が導入される。

そのため、学校の実態や児童の実態に応じて

- 自ら学び自ら考える力の育成を図る
- 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る
- 個性を生かす教育の充実を図る

これらが実現できるように、これまでの指導内容の精選を図り、指導方法の工夫改善をしなければならなかった。そこで、教育課程を編成するに当たっては、学校教育目標の具現に向けて学校の創意工夫を生かし、特色ある教育を展開するために、各教科・領域の指導目標・内容を意図的・計画的に進めていくことが大切である。

そこで、学校経営の上から、全教科、全領域、全学年と幅広く編成をする必要があるが、新しい学習の総合的な学習を取り上げ、学校教育目標から具現化した教育課程編成の一課題における年間指導計画と単元計画、時間割編成を考えてみた。

本校の学校教育目標は、「自ら学び、心豊かでねばり強くたくましい子」の育成である。

具体目標として、

- よく考え、自ら学ぶ子
 - 心豊かで思いやりのある子
 - 健康で明るくたくましい子
- である。

その中で、「よく考え、自ら学ぶ子」を重点目標とし、子供たちが

- 自ら課題を選択する
- 課題について調べ、筋道を立てて考える
- ねばり強く取り組み解決していく
- 解決したことをまとめ、発表につなげる。

これらを指導の重点として追究することにより、更に広い考え方が知識へと変容していくという自己教育力の育成が図れ、学校教育目標の達成につなげられる。

総合的な学習においては、上記のことを考慮し計画・実施することが大切である。そこで、総合的な学習の地域素材を生かした課題を取り上げ、指導目標、内容をまとめ、年間指導計画や実施における時間割編成を考えてみた。

2. 総合的な学習の意義と基本的な考え方

(1) 総合的な学習の意義

これからの学校教育は、知識を一方的に教え込む教育から子供自ら考え、自ら解決していく教育へと変わってきた。

つまり、子供一人一人が個に応じて「生きる力」を育むことが重要視されている。そこで、「総合的な学習の時間」により、学び方や問題解決までの資質や能力の育成を図り、実生活と関連させながら体験的学習や問題解決的学習にじっくりとゆとりを持って取り組ませることで「生きる力」を養うことができる。

(2) 総合的な学習の基本的な考え方

総合的な学習を進めるに当たって、

- 身近な地域の課題や現代社会における課題及び子供の生活体験などの実態を把握し、活動の仕方を工夫する。
- 子供が意欲的に取り組める学習テーマを設定する。
- 主体的な学習ができるように配慮し、指導内容が広がり過ぎないようにする。

○ 体験的な活動を重視し、知識と活動を一体化させた学習を工夫する。

このようなことを考慮に入れて学習を取り組ませることにより、実生活と関連させ、学び方や問題解決の能力や資質を高めることができる。

3. 教育課程への位置づけ

課題によって実施時期や期間、時数が異なるため年間を通した計画が必要となる。3年から6年の各学年の課題に適した時期や期間、時数を配慮し、子供たちがゆとりを持って、主体的な学習が行えるような計画をすることが大切である。そのために、学習の指導目標や学習内容を捉え、授業時数や年間指導計画を作成し、計画・実施の手順を踏み、教育課程に位置づけて実施することが必要である。

4. 自己教育力と総合的な学習との関わり

自己教育力とは、子供自ら学び、自ら考え、解決する力である。これは、教科で学んだ知識を実生活と関連づけて初めて役立つものである。子供自ら、これまでの知識を総合化し必要に応じて、また興味関心に従って、いつでも考えて行くという知的活動が展開できなければならない。

その総合的な知的活動を可能にしたのが「総合的な学習の時間」である。

「総合的な学習の時間」は、子供の興味関心を引き出し、継続して意欲的に活動できる学習内容や学習活動を展開させることができる。そのためには、問題解決的学習や作業的・体験的学習を取り入れて学習を進めることが大切である。

子供が体験を通して疑問に思ったことや調べてみたいことを自ら課題を設定し、課題追求を図り解決していく能力、すなわち、自己教育力につなげることができるのである。

5. 総合的な学習の年間指導計画の作成

総合的な学習のねらいを達成する上で、学習内容を学年に応じて、授業時数との関連でゆとりを持って活動できるように計画したのが年間指導計画である。

新しい学習の取り組みのため、今回の研究は、5・6年の共通課題をひとつ取り上げて、計画してみた。この計画をベースにして、今後、各学年の課題や実施時期、実施時数の計画を考えていきたい。

(1) 「総合的な学習の時間」の学習内容について

総合的な学習のねらいを踏まえ、

- 地域や学校の実態に応じ、各学校が創意工夫を十分発揮して展開できる課題
- 生活の中からの体験を通した課題
- 子供が興味関心を抱いている課題 等々

を教師が課題として取り上げ、興味関心のある問題を選択させて取り組ませることが望まれる。その他に現代社会における今日的課題として、文部省が示した国際理解・情報教育・環境問題・福祉・健康等の四つの課題を取り扱うこともできる。

(2) 授業時数の運用と実際《事例》

授業時数を配当する場合は、指導の重点、指導方法、との関わりを考え、子供たちが楽しく良く分かり、ゆとりを持って主体的に学習を展開していくことが大切である。

また、105時間～110時間の時間の枠だけが示されている中で、学習の流れを、課題設定から調査観察、作業・体験、解決の一連の流れを、ゆとりを持って取り組める時数の配分を考える必要がある。

① 授業時数の配分

地域素材を生かした学習の展開の実施時期を1学期として考えてみた。

実施時期を1学期に行うことで、1学期を12週と抑え、36単位時間とした。

- | | | |
|-------------------|-------|------|
| 1)課題を見つける | | 3時間 |
| 2)疑問や調査内容についてまとめる | | 3時間 |
| 3)疑問について調査し解決していく | | 22時間 |

4)解決したことをまとめ発表する 8時間

② 学習活動の手順

課題は、子供の主体的な活動に繋がるものでなくてはならない。また、子供自らの生活経験の中から、気づき、疑問を投げかけ、願いをもたすことも重要である。それによって、子供が興味関心を持って取り組み、主体的に活動する課題を設定するためには、「アンケート」や「教師による資料の提供」「体験を通して」などから取り上げることができる。

それによってたくさんある課題の中から、子供が自分の学習したいことを選択することで、積極的に課題選択能力が高められる。

実践事例では、子供や父母、教師へのアンケートを実施し、課題を設定し調べてみたいことを選択させることにした。

児童や父母が地域について「学習させたいこと、学習したいことは何か」のアンケートを実施した。

その結果、身近な糸満市や学校、地域（小字）の三つの中から学習したいものは

- 糸満市 . . . 児童 35% 父母 36%
- 学 校 . . . 児童 21% 父母 9%
- 地域（小字） . . . 児童 42% 父母 55%

「地域（小字）の伝統文化や歴史を学習したい」が、児童・父母共に半数近くを占めている。

更に、地域の伝統文化や歴史の中で、地域（小字）の行事や遺跡について「何を学習したいか、学習させたいか」を調べると、

児童が学習したい順位	父母が学習させたい順位
1位 . . . 真壁グスク 45%	1位 . . . 清明祭 67%
2位 . . . エイサー 40%	2位 . . . 綱引き 64%
3位 . . . ハーリー 34%	3位 . . . エイサー 55%
4位 . . . アブシバレー 33%	4位 . . . ハーリー 55%

地域の行事に参加したり、伝統文化や遺跡に直接触れたり体験したりする機会が多いこの地域では、子供が学習したいこと、父母が学習させたいことがやや共通している傾向がある。

このことから分かるように、児童・父母共に地域に残された文化財や遺跡、行事等に興味関心がある。そこで、地域素材を生かした学習を取り組ませることにより子供の興味関心を高め、意欲的に学習することにつながる。

そこで、地域素材を生かした学習を課題として取り組むことにした。小字の行事が4月～7月に集中して実施されるため、子供たちに体験的学習を取り入れる上からも1学期に取り組むことが必要である。

そこで、5・6年の共通課題として「地域素材を生かした課題」だけを取り上げてみた。従って、地域素材を学習内容に取り上げ、活動の流れを次のように時数配分し、指導計画を考えてみた。今後、各学年の課題や2学期、3学期に取り組みたい課題を設定し、計画・実施していこうと考えている。

③ 年間指導計画実践事例【地域の伝統文化や歴史に触れよう】

予定時数	項 目	学 習 内 容	指 導 目 標
3	○ 課題を決める ・教師が提示した課題以外にも、子供達が学習したいという課題を引き出させ見つける。	問題例 ○ 真壁グスクの成り立ち ○ エイサーの始まり ○ ハーリーの始まり ○ アブシバレーの意味	○ 地域の行事や遺跡に疑問を持ち、問題を決めることができるようにする。
	○ 問題の中から疑問に思うことを話し合う。	・真壁グスクは、いつできたか。 ・グスクには、何が祭られているか。	○ 疑問に思っていることを話し合うことができるようにする。

3	調べるときに生じる疑問や調べている時に生じる疑問等を一つ一つ解決していくようにする。	- エイサーは、いつから始まったか。 - エイサーの踊りの種類 - ハーリーの始まりはいつか。 - ハーリーの語源 - アブシバレーに祭られる虫は、どういう虫か。	疑問を解決するための手順を知り、深められるようにする。
10	- 疑問について調べる方法について（問題解決的学習） - 教師が調べる方法や解決策等を支援してあげる。	- 図書館の資料を元に調べる。 - 家庭の祖父、祖母から話を聞く。 - 学校で地域の人を活用して話を聞く。 - 公民館や中央図書館等の資料より調べる。 - 写真や資料から調べて、場所や期間、時期を確かめ、体験や視察する計画をする。	- 行事や遺跡について、自ら進んで調べることができるようにする。 - 地域の人から話を聞き取り情報を集めることができるようにする。
12	- 疑問に関係する遺跡やグスク等の視察や行事への参加による体験を行う。（体験的学習） - 地域での行事参加を通して疑問に思うことを更に解決していくようにする。 - 平日の場合には、積極的に体験させ、学習を深めるようにする。	- グスクの視察 - エイサーの体験と視察 - アブシバレーへの視察と参加 - ハーリーの参観と体験 - 綱引き行事への参加 - 清明祭への参加 - 地域人材活用で得られなかった情報を行事参加者から直接、話を聞く。 - 資料より得た情報を元に、実際の調査で新に分かったことや体験したことで気づいたことを記録する。	- 行事に参加し、地域の伝統文化を理解することができるようにする。 - 行事を体験することによりすばらしさを体得することができるようにする。 - 遺跡を訪ね、見たり、触ったりして体感させることで偉大さを感じ取ることができるようにする。
5	- まとめ（作業的学習） - 写真や絵、文章等で他の人たちにも分かるようにまとめる。	調べて分かったことを作文や写真等まとめる。	調べたことを写真や図などを使ってまとめることができるようにする。
3	- 発表 - 自ら解決してきた疑問を整理し発表につなげる。	調べて来たことをみんなに分かりやすく発表する。	まとめたことを分かりやすく発表することができるようにする。

④ 活動の構成と配列

本時のねらい

- 行事の参加を通して、行事のすばらしさや偉大さに気づくことができる。（気づく）
- 伝統文化の意義や歴史を知り、疑問に思ったことをもとに調べてみたいという意欲を持つことができる。（実践的態度）

本時の展開（名城ハーリーの体験を通して）

予定時数	活 動 の 流 れ	教 師 の 支 援	留 意 事 項
	行事の参加を通して、行事のすばらしさや偉大さに気づくことができる 1. 今日の学習のねらいを知り、調べ学習や体験学習をする。 - 北名城のハーリーの雰囲気味わう。 - 船の形や衣装等を調べる。 - 地域の人からハーリーの意	- 海岸での地域の人の雰囲気を感じたことを書かせる。 - ハーリーの船や衣装に目を向けさせる。 - 小字の人から意味の聞き取り	- 質問事項や疑問に思っていることを整理してまとめさせておく。 - 水着の準備をさせる。 - 舟の形や衣装を図や文で表しておく。

4 時 間	味や歴史等を聞き取りする。 2. ハーリーに参加し、船を漕いでみて実体験をする。 ・ 本ハーリーの様子を見る。 ・ 本ハーリーの意味を調べる。 ・ 本ハーリーに参加する。 ○ 本ハーリーの子供ハーリーに参加し、実際に舟を漕ぎ体験をする。 (権のもち方を知る。) (漕ぎ方や掛け声のかけ方を知る。) ・ 舟を漕いでいる時の感触を知る。	・ 区長さんから歴史の聞き取り ・ 競漕の様子で掛け声のかけ方や漕ぎ方等に気を付けさせる。 ・ 権の持ち方を地域の人から教えてもらう。	○ 礼儀正しく、聞き取り後のお礼も気を付けさせる。 ○ テープなどを使って、意気の良さを記録させる。
	伝統文化の意義や歴史を知り、疑問に思ったことをもとに調べてみたいという意欲を持つことができる。(実践的態度) 3. 御願ハーリーを見ての様子を感じたことをまとめる。 ・ 御願ハーリーの時の周りの人たちの様子や漕いでる人たちの様子を調べ気づいたことをまとめる。 ・ 御願ハーリーの意味について調べる。 4. これまでに調べて分かったことや地域の人や区長さんから聞いて分かったこと気づいたことをまとめ、発表する。 ○ ハーリーの始まりは ○ ハーリーの意味 ○ ハーリー船を漕いでの感想 ○ その他 5. 地域の人達にお礼を言う。	・ 本ハーリーと御願ハーリーとの違いは何かを捉えさせる。 ・ 区長さんより聞き取りをさせる。 ・ 「いつ頃、なぜ実施するようになったか。」を調べさせる。 ・ 記録したこと、体験して知ったことを自分なりにまとめさせて発表につなげる。 ・ 調べて行く内に、疑問に感じたことでも発表させる。	○ 忙しくない時期を捉えて調べさせる。 ○ 浜の木陰で気楽に発表できる雰囲気を作らせる。 ○ 新たな疑問で、資料で調べられるものと地域の人から聞いて調べるものとに分けさせる。

6. 時間割編成の工夫

総合的な学習は、課題によって実施時期や期間、時数が異なっている。そのため、弾力的な運用ができる時間割を考える必要がある。

各学年の総合的な学習時間の編成も必要であるが、今回は、高学年だけを取り上げた総合的な学習の時間の工夫を考えてみた。

今後、全職員と共通理解のもとで実施できる時間割を、編成していきたい。

そこで、どんな課題にも対応できる学習の時間を工夫してみた。

(1) 時間割の意義

学校の時間割は、総授業時数を年単位、月単位、週単位、日単位で各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の授業時数を配分したものである。年間を通して標準授業時数を確保するための大事なものである。

(2) 時間割編成の工夫

新教育課程では、学校の創意工夫で授業時間の弾力的運用や時間割の編成ができるようになった。総合的な学習は、各教科、道徳、特別活動の授業時数を確保しつつ実施することが必要である。

高学年において、各教科の授業時数が確保でき、総合的な学習の時間が実施できるような時間割編成を、下記の通り考えてみた。

	月	火	水	木	金
1校時	○	○	○	○	○
2校時	●	○	●	○	●
3校時	○	○	○	○	○
4校時	○	○	○	○	○
5校時	○	○	○	○	○
6校時		○	○	○	

図1

	月	火	水	木	金
1校時	○	○	○	●	○
2校時	○	○	○	●	○
3校時	○	○	○	●	○
4校時	○	○	○	●	○
5校時	○	○	○	○	○
6校時		○	○	○	

図2

①図1の総合的な学習の時間を月水金の週3時間に実施する。

- ・ 課題決めや疑問等の整理には、子供たちの興味関心が低いいため、学習時間を短く取ることにより、興味関心の持続を図ることができる。
- ・ 子供の実態により、45分の授業で仕上げるができない場合には、授業時間の弾力的な運用で継続できるよう2校時に組むことにした。

②図2の時間割は、木曜日に限ってではないがまとめ取りで4時間実施する。

- ・ 子供たちに体験を通して学習してもらうために長時間の確保が必要である。
- ・ 調べてきたことをまとめたり、発表したりするため、まとめ取りすることでゆとりを持って学習できる。
- ・ 4時間の配当てで足りない場合は、1日単位時間にしたり、2週にまたがったりすることで弾力的な運用を図る。

総合的な学習の時間が、時間割の弾力的な運用で普段の時間割の中で組み入れて実施することから、教科の時間割変更によって不足を補う必要が出てくる。

即ち、学習内容や実施期間によって、時間割の変更が生じることがある。其の際、職員の共通理解を図ることが大切である。

本研究は、1学期分の総合的な学習の時間の計画と学習の進め方、高学年の時間割編成の工夫を行ってきたが、各学年の年間を通した計画と時間割の在り方は、現場の先生方と協力し作成していきたい。

V 総合的な学習のアンケート調査結果・考察

1. 地域素材を生かした総合的な学習を進めるに当たり、児童や父母に地域の事についてアンケート調査をしてみた。

(1) 糸満市について 父母と比べて児童の方が良く知っていると答えている。 これは、社会科に郷土の学習をする単元があり既習したことから知っていると答えたのではないかと考える。	(2) 学校について 児童の半数が学校の伝統文化、歴史について知っている。	(3) 地域（小字）について 児童が地域のことに ついて知っていると答えている。	(4) 糸満市・学校・地域の三つのことについて 児童・父母共に地域の ことについて学習したい、学習させたいと 意見の一致が見られる。																																													
<table><tr><td rowspan="2">はい</td><td>児童</td><td> 81%</td></tr><tr><td>父母</td><td> 39%</td></tr><tr><td rowspan="2">いいえ</td><td>児童</td><td> 19%</td></tr><tr><td>父母</td><td> 61%</td></tr></table>	はい	児童	81%	父母	39%	いいえ	児童	19%	父母	61%	<table><tr><td rowspan="2">はい</td><td>児童</td><td> 51%</td></tr><tr><td>父母</td><td> 24%</td></tr><tr><td rowspan="2">いいえ</td><td>児童</td><td> 45%</td></tr><tr><td>父母</td><td> 76%</td></tr></table>	はい	児童	51%	父母	24%	いいえ	児童	45%	父母	76%	<table><tr><td rowspan="2">はい</td><td>児童</td><td> 65%</td></tr><tr><td>父母</td><td> 46%</td></tr><tr><td rowspan="2">いいえ</td><td>児童</td><td> 36%</td></tr><tr><td>父母</td><td> 54%</td></tr></table>	はい	児童	65%	父母	46%	いいえ	児童	36%	父母	54%	<table><tr><td rowspan="2">糸満市</td><td>児童</td><td> 35%</td></tr><tr><td>父母</td><td> 36%</td></tr><tr><td rowspan="2">学校</td><td>児童</td><td> 21%</td></tr><tr><td>父母</td><td> 9%</td></tr><tr><td rowspan="2">地域</td><td>児童</td><td> 42%</td></tr><tr><td>父母</td><td> 55%</td></tr></table>	糸満市	児童	35%	父母	36%	学校	児童	21%	父母	9%	地域	児童	42%	父母	55%
はい		児童	81%																																													
	父母	39%																																														
いいえ	児童	19%																																														
	父母	61%																																														
はい	児童	51%																																														
	父母	24%																																														
いいえ	児童	45%																																														
	父母	76%																																														
はい	児童	65%																																														
	父母	46%																																														
いいえ	児童	36%																																														
	父母	54%																																														
糸満市	児童	35%																																														
	父母	36%																																														
学校	児童	21%																																														
	父母	9%																																														
地域	児童	42%																																														
	父母	55%																																														

2. 地域の遺跡や文化財、行事について

(1) 身近な遺跡や文化財について知っているもの

- 真壁グスクとナカンカーが、児童・父母共に過半数近くの人知っている。

次いで、宇江城グスク、真栄平グスク、新垣グスクの順で知っている。

真壁グスク	児童	79%
	父母	73%
ナカンカー	児童	54%
	父母	40%
宇江城グスク	児童	20%
	父母	28%
真栄平グスク	児童	16%
	父母	22%
新垣グスク	児童	20%
	父母	22%
エーギナ	児童	0%
	父母	19%

(2) 遺跡や文化財で行ったことがあり、見たことがあるもの

- 真壁グスクとナカンカーが、児童・父母共に経験がある。次いで、宇江城グスク、全部新垣グスクの順で経験している。

真壁グスク	児童	83%
	父母	64%
ナカンカー	児童	46%
	父母	90%
宇江城グスク	児童	11%
	父母	25%
全 部	児童	11%
	父母	25%
新垣グスク	児童	15%
	父母	18%
真栄平グスク	児童	11%
	父母	14%

3. 地域の行事について

(1) 地域行事について知っているもの

児童・父母共にハーリーが、よく知っている名城のハーリーが盛大に行われ、児童も積極的に参加していることからであろう。

次に綱引きが各字で実施されていることから過半数がよく知っている。次いで、清明祭、エイサー、ウマチーの順である。

ハーリーグスク	児童	95%
	父母	96%
綱引き	児童	89%
	父母	90%
清明祭	児童	66%
	父母	90%
エイサー	児童	90%
	父母	87%
ウマチー	児童	21%
	父母	85%

(2) 地域の行事で参加したことや見たことがあるもの

- 綱引きが各字の実施があるため、児童の全員が参加している。その次に、清明祭、ハーリーと行事に対しての積極的な参加が見られる。

綱引き	児童	88%
	父母	86%
清明祭	児童	53%
	父母	85%
ハーリー	児童	72%
	父母	85%
エイサー	児童	79%
	父母	80%
アブシバレー	児童	28%
	父母	76%
浜おり	児童	3%
	父母	69%

4. 地域の遺跡や文化財、行事について児童が学習したいものや父母が学習させたいもの

- (1) 児童が学習したいことは、①真壁グスク②エイサー③ハーリー④アブシバレーの順で半数近くが学習したいと考えている。

- (2) 父母が児童に学習させたいことは、①清明祭②綱引き③エイサー④ハーリーである。児童と父母との意見の一致が見られる。

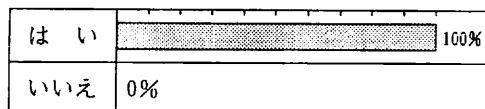
真壁グスク	児童	45%
	父母	54%
エイサー	児童	40%
	父母	55%
ハーリー	児童	34%
	父母	55%
アブシバレー	児童	33%
	父母	53%
ナカンカー	児童	31%
	父母	11%
綱引き	児童	31%
	父母	64%
マチ棒	児童	31%
	父母	36%
真栄平グスク	児童	24%
	父母	17%
波平シーサー	児童	22%
	父母	20%
新垣グスク	児童	20%
	父母	25%
新垣遺跡	児童	17%
	父母	20%
清明祭	児童	17%
	父母	67%
糸洲グスク	児童	17%
	父母	10%

5. 教師の総合的な学習の意識について

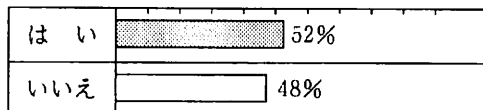
総合的な学習については、先生方全員が耳にしたことがある。学習内容についても、過半数の先生方が把握しており、すぐにでも取り組んで研究してみたいと考えている。

また、子供に取り組ませたい課題としては、地域の伝統文化や歴史、自然環境について等を上げている先生方が多い。

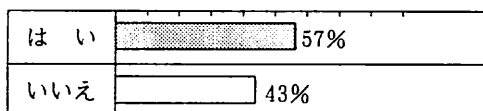
① 総合的な学習を知っていますか。



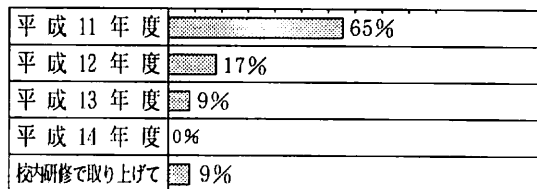
③ 総合的な学習の学習内容について知っていますか。



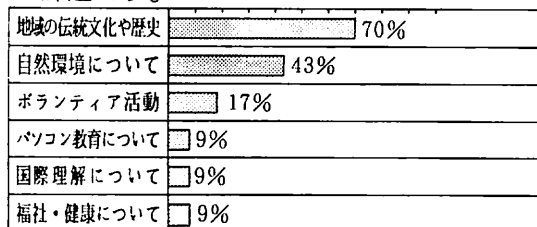
③ 総合的な学習の取り組みについて考えていますか。



④ 総合的な学習の研究をいつから始めますか。



⑤ 総合的な学習として子供たちに取り組ませたい課題です。



VI 研究のまとめと今後の課題

1. 研究のまとめ

- (1) 先進校の資料や参考文献を通して、総合的な学習の時間の導入の意義やねらい、学習のさせ方について知ることができ、展開方法を理解することができた。
- (2) 総合的な学習の課題を考えると、学校や地域社会の課題や子供たちが興味関心のある課題を身近なことから課題を拾い上げることが必要である。
- (3) 学習活動を展開するにおいては、課題決定、課題追求、課題解決、まとめ発表の手順を踏むことが大切である。その中で、個に応じた課題については、個人の能力に応じた調べ方やまとめ方を学習活動の中に入れて考えることが大切である。

2. 今後の課題

- (1) 総合的な学習の新しい取り組みを職員全員で共通理解して取り組める組織づくりや研究体制、校内研修の確立
- (2) 総合的な学習の取り組める環境や施設の充実
- (3) 総合的な学習の課題を展開するには、子供たちが主体でなければならない。主体的な活動ができるようにするためには、課題に対する様々な資料の準備
- (4) 子供にとって興味関心の持続性のある課題、課題追求の継続性のある課題の洗いだし
- (5) 総合的な学習の時間による他教科への時数のしわ寄せがない実践方法の工夫
- (6) 学習活動の一連の流れは、課題決定から課題追求、課題解決、まとめ・発表の四つの段階を踏んで、一連の流れをゆとりを持って活動できる適切な時間の設定
- (7) 生活に関連する学習を通して、身近な生活問題を自ら解決していける「知の総合化」

《参考文献》

- 真壁小学校期成会 『真壁小学校創立百年の歩み』 沖縄時事出版 1981年
- 天笠 茂・秋田大学教育文化学部附属小学校
『総合的な学習への挑戦（豊かな子供文化をひらく）』 教育出版 1998年
- 神戸大学教育学部附属明石小学校研究会
『明石付小プラン'89 総合学習の探求と実践』 ぎょうせい 1989年